



義務教育学校

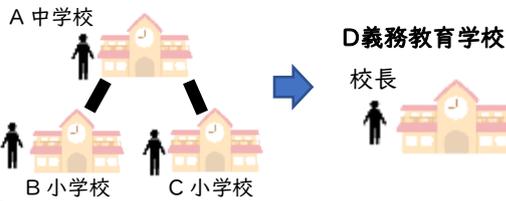
- ・小学校や中学校は馴染みがあるんだけど、「義務教育学校」って何？
- ・小学校と中学校の連携や、小中一貫校と何か違うのかな？

○ 小中連携教育・・・小・中学校段階の教員が互いに情報交換や交流を行うことを通じて、小学校教育から中学校教育への円滑な接続を目指す様々な教育

○ 小中一貫教育・・・小・中連携教育のうち、小・中学校段階の教員が、**目指す子ども像を共有し、9年間を通じた教育課程を編成し、**系統的な教育を目指す教育

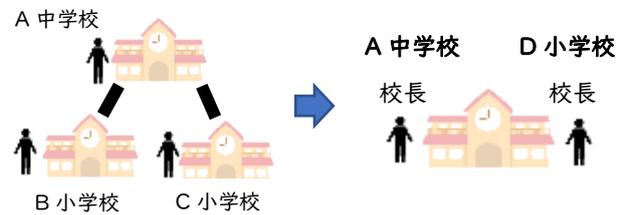
① 義務教育学校

- ・ 新たな学校種 (一つの学校)
- 一人の校長、一つの教職員組織
- ・ 修業年限:9年
(前期課程6年+後期課程3年)



② 小中一貫型小学校・中学校

- ・ 組織上独立した小学校・中学校が一貫した教育を実施
- それぞれの学校に校長と教職員組織がある



山ノ内町で開校を目指しているのは、①の義務教育学校なんだね。



義務教育学校にすることの良さって何かあるのかな？

○義務教育学校のよさの例

- ①いわゆる「中一ギャップ」の緩和・解消が期待できる。
(学習、生活面等新しい環境への変化に対する不安の緩和。)
- ②異学年交流で精神的な発達や社会性を養うことが期待できる。
- ③教育課程特例を活用し、自由なカリキュラムの編成ができる。
(『4つの学び』を柱に学校独自の教科が設定可能となる。)
- ④学年段階の区切りを「5・4」や「4・3・2」など柔軟に設定できる。
(指導内容の入替え、前倒し等により先を見据えた学習が可能。)
- ⑤教科担任制や乗り入れ授業等による指導が充実できる。
- ⑥教職員間で児童生徒の学習状況や特性等が共有され、きめ細やかな指導ができる。(校務の効率化や質の向上につながる。)
- ⑦PTA組織の一本化が図られる。

○義務教育学校の課題の例

- ①小中一貫となる義務教育学校では9年間同じ学校にいるため、人間関係が固定化されやすい。
- ②学年段階の柔軟な設定により、小学校高学年におけるリーダー性の育成が阻害される可能性の指摘。
- ③小中の節目がないため、小学校卒業の達成感がなく、中学校への新鮮さがない。(小学生気分が抜けない)



義務教育学校のことが今までよりも分かってきたね。よさも課題もあるんだね。課題の部分をどう乗り越えていくか、町のみなさん、先生方、子どもたち、みんなの考えを出し合って、よりよいものにしていきたいね！